

1 岩黒島

瀬戸大橋の橋脚が建つ島、岩黒島。マリナーの車窓から巨大なクマゼミの壁画が見られるのをご存じでしょうか。岩黒中学校体育館の壁一面に描かれています。

かつて岩黒島には鳴き声で住民同士の会話が聞き取れないほどクマゼミが多く生息しており、「クマゼミの島」と呼ばれていました。1968年に岩黒中学に赴任した田中俊彦教諭(当時)がクマゼミの研究を提案。生徒たちと3年がかりで取り組み、第14回日本学生科学賞中学部門で第1位を受賞しました。その後同校の島本寿次教諭(同)が研究課程を「クマゼミの島」として出版しました。

同書には研究の困難さとともに、生徒間の感情のもつれと友情、新発見に肩をたたいて喜び合う姿等が生き生きと描かれています。興味のある方は市立大橋記念図書館でぜひお読みください。

その後、瀬戸大橋架橋工事に伴いクマゼミは減少。当時の記憶は薄れていました。昨年度、島の先輩たちの足跡を残そうと「巨大クマゼミ壁画プロジェクト」が発足。同中学校唯一の在學生と島民が協力して昨年10月に完成しました。大空に向かって今にも飛び出しそうな成虫とかわいく描かれた幼虫をぜひご覧ください。 ※同島へはバスをご利用ください。自家用車では入れません。



2 新開の常夜燈

元町にある児童公園から少し東に行った細い路地を進むと突然民家の一角に2メートルを超える大きな石灯籠が現れます。坂出にはこうした石灯籠がいくつか現在も残っていますが、ここに立っているのは新開の常夜燈で弘化3年(1846)年坂出浦の船の出入口のために建てられた常夜燈で、港の目印とした航海安全を願う金毘羅燈籠です。



江戸時代享保の頃、坂出の港(坂出浦)に船の出入りが次第に多くなり、林田浦にあった高松藩の船番役所は享保17年に西洲加八軒家に移され、港は海岸に沿って発展し、東へ伸びてきてその東端がここでよい船着場でした。そこで常夜燈を建てて金毘羅宮に捧げて海上の安全を祈り、併せて港の目印としました。その後坂出墾田事業によって海岸線は沖に伸びましたが、町内の常夜燈として有志の手により石灯籠として残され今日に至っています。

参考資料：文化史さかいでシリーズIIさかいで石物語、現地の碑

3 城山長者の壁画

川津町を通る四国横断自動車道ののり面に、川津に古くから伝わる『城山(きやま)長者』の壁画があります。その昔、城山に住む長者が足の不自由な美しい娘(乙姫)のために、立派な車と車道(くるまみち)を作り、四季折々の美しい景色を毎日見せたという場面を地元の方が描いたものです。

平成4年の自動車道開通を記念して壁画になりました。



編集後記

新型コロナウイルス感染症により、市内のイベント、行事は中止・延期・縮小を余儀なくされました。当たり前だと思っていたことが当たり前ではなくなり、今までの当たり前に感謝をしたり、見つめ直す機会になりました。

まだまだ先の見通しは立ちませんが、いつか来る当たり前、新しい日常に備え、十分に準備ができるとプラスに捉えたいと思います。

(東原)

広報広聴委員会 委員長……植原 泰 副委員長……丸岡豊和
委員……寒川佳枝 東原 章 若谷修治
齊藤義明 野角満昭 若杉輝久

次回開催は…
12月定例会を12月上旬
に、開催予定です。

